

討論

【竹内整二】 不条理な死の前に、みずからの死生をどのように位置づけるかという伊藤さんのご発表と、死者、亡者を哀悼する伝統的文化様式がどう変遷してきたかについての韓榮奎先生のご発表でした。時間がございませんので、お二方からご質問いただきたいと思います。

【呉進鐸】 今、竹内先生も人間の死は不条理なのだということをおっしゃっていましたが、この会も含めて死生学の研究を進めていく上で、死に関して不条理という言葉を使うことははたして適切なのでしょうか。仮に一般人であるならば、死は不条理なのだと言うことはできるかと思えます。しかしながら、死を研究したり専門家を自称する立場からすると、死に関して不条理という言葉を使うことは、もともとの研究の意図からははずれることになってしまわないでしょうか。むしろ、宿命やあるいは運命という言葉であれば納得のいくところもあるかと思えますが……。ここで死に関して、不条理というふうに捉えたその意図について少しお聞かせ願いたいと思います。

【伊藤由希子】 ありがとうございます。私もさつきお話ししながら、不条理というのは少しきつい言い方かもしれないとは思っておりました。ただ、たとえば今回の話の「榎山まいり」など、自分たちが育てた子供や孫たちに捨てられる嫉捨というようなかたちでの死は、やはりまずは本人にとっては不条理と言っているもの

なのではないかと思えます。もちろん死がすべて不条理と言ってしまうていいのかというと、たしかにそうとは言えないものもあるでしょうし、不条理と言うのとは違う死の受けとめかたを見ていくことは大切なことだと思います。

ただ、同時に先ほど言われたような宿命とか運命といったような言い方も、それである程度死を納得できている人たちもいるでしょうが、そういうような言葉を使いつつも納得しきれない部分を抱えている人たちも多いように思います。不条理という言葉には、たしかにあるバイアスがかかっています。それと同じように、宿命、運命という言葉を使うことにも、違う方向でのバイアスがかかっていると思えます。できるだけバイアスを排除して死を見ていくことも研究者にとつて必要なことでしょうが、いろいろな思いや感情をもつて死を受け入れている人たち、あるいは受け入れていない人たちのその思いをそれとして見ていくということも、研究者の大切な仕事なのではないかと考えています。

【竹内】 一言だけ申しあげておきますと、私や伊藤さんが使っている不条理という言葉は、我々の思い通りにならない不如意な出来事である、我々の合理的な感覚を超えてしまっているという意味合



いです。

【呉】 韓国語と日本語の語感の差異、ニュアンスの差もあるのではなからうかと思えます。一般人にはやはり死という否定的なイメージがあると思うんですが、ここは専門家の集まりなわけですから、そういった否定的な言葉使いは少し差し控えながら、中立的、もしくは肯定的な姿勢を取っていかなければならないのではないのでしょうか。

【竹内】 反論はありますけど、時間がありませんので、後で総合討論の時にまた議論できればと思います。

【崔一凡】 コンステレーションについて質問があります。おりんのように人生といったものが星座を見るごとくに全体的に見えてくるというようなことがあるとすれば、死を超越することができると思っていますか。また、もしそういうふうなふうに思ったらっしゃるのであれば、具体的にどういった方法があるか、思っていますか。

【伊藤】 人生が星座のように見えてくるということについては、大阪大学で臨床哲学をやっていたらっしゃる鷺田清一先生が『老いの空白』という本の中で、別の文脈でおっしゃっていたことがヒントになるように思っています。人が年老いてくると、記憶が曖昧になってくることで、自分の人生のさまざまな記憶が、時系列的に直線のように積み重なるというよりは、一枚の絵のように集約されてきて、そしてその中である光景がぼつと浮かびあがってくることもある、と。そしてそのことによって、その人の人生がどのようなものだったのか

が見えてくることがある、というようなことを鷺田先生はおっしゃっているんですね。

そういうように、人生が物語のような整然とした形ではなくても、何か一つでもいいから、自分で「ああ、自分の人生はそうだったのか」と何かふと納得できるようなものが浮かんでくれば、それでその人の人生が一枚の絵のように形作られ、それによって何らかの安心のようなものをもって死んでいける人もいるのではないかと思います。ただ、そのことを「死を超越する」と表現するのが適当かはわかりませんが、自分の人生が何であつたかが腑に落ちることで、死を受け入れることにつながる場合も少なくないのではないのでしょうか。そしてそれは、多くの人たちがそれと意識せずともやってきていることなのかもしれないと思っています。

【竹内】 韓榮奎先生に対してもまだご質問あるかと思いますが、時間が随分おしておりますので、第三セッションは終えて、是非総合討論の方で出していただければと思います。